暑い夏に感じた大学の熱意（2012.10.1）

暑かった夏日の連続は、敬老の日を過ぎて、やっと朝晩の気温が下がってきたようですが、日中は相変わらず 30 度を超えそうな勢いです。
この夏は、何年分もの夏を過ごしたように錯覚しております。
暑さに慣れた為か、過酷な日々にもかかわらず、熱中症に陥る方々が思ったより少なかったのは、喜ばしいことでした。

9 月初めに仙台で開かれた有る会議で、東北大学総長である里見進さんという外科医の講演を聞きました。自分が東北大学付属病院長に就任していたときに遭遇した大震災関連を、『東日本大震災における東北大学病院の活動と東北大学の今後の取り組み』と題して、大学病院の被害の状況と、その被害を正常業務が出来る迄に戻した経過を語られ、其の上で、崩壊した地域社会を、特に地域医療の再構築も含め述べられました。
宮城県の、“一大学”の立場というのではなく、正に“東北地方の将来を担う大学”の態度を示した堂々たる内容でもあり、非常に力強く感じました。

この講演会より一週間前に、山大医学部がこの 1～2 年の内に取り組もうとしている『重粒子線がん治療施設建設』計画を聞く機会が有りました。
同じような施設は、まだ国内では三ヶ所しかなく、悪性疾患の治療に関してはピンポイントで悪性細胞を攻撃出来る放射線関連の施設のようです。
脳神経外科の嘉山教授が、建設に向けて効果と役目を篤い思いで述べておられました。
身近な大学が、それぞれの立場で役目を果たす熱意と苦労を殊の外、間近に感じた暑い夏でした。
自分自身の周りでも、課された立場を汚すことなく、日々を過ごしたいと考えております。

暑さに慣れきった体には、朝晩の気温の降下はつらいものと思われます。
風邪等と仲良くせずに“実りの秋、〇〇肥ゆる秋”を上手に過ごしましょう。